

輸出事業計画

※申請者名：おかやま白桃輸出促進協議会

品目：桃、桃加工品

1. 輸出における現状と課題

現状：

日本の高付加価値果物である桃は、農林水産省の輸出拡大実行戦略の重点品目に位置付けられ、海外からの強いニーズもあり、香港、シンガポール、タイ、マレーシアといった国々を中心に輸出を行っている。財務省貿易統計に基づけば、日本から世界への輸出総量および輸出総額は、2021年が1,926tで23.2億円、2022年が2,340tで29億円、2023年が2,155tで26.1億円、2024年が2,314tで29.5億円という状況である。

桃は新鮮な状態が短いため、各国のニーズにこたえるためには、大口の輸出が必要となる。また、これまで輸出実績のない国々からの需要が増していることから、多くの需要に対応するためには、個々の生産者が個別に取り組むのではなく、産地全体でまとまって輸出に取り組む必要がある。

課題：

(1)生産

産地として大口需要に応じていくためには、産地として品質を標準化する必要がある、輸出用の栽培管理・栽培手法を確立・共有する必要がある。

(2)流通・販売

これまで輸出実績のない国々に対応するには、輸送により傷みが発生しやすい桃において、輸送時間を短縮するための専用の輸送ルートを開くことや、長距離輸送にも耐えうる鮮度保持技術を活用し、新しいコールドチェーンを確立する必要がある。また、輸出商社のATRA-DE株式会社を中心に海外販路開拓を行う必要がある。

2. 輸出事業計画の取組内容

(1)生産

- ・「省力栽培技術Y字型栽培」と、年数の経過した桃木を輸出に向けた品種（晩生品種）へ転換を図り、高齢化等で跡継ぎのいない桃農家の農地を継承し桃産地として強化を図り、耕作放棄地・再生農地活用し輸出向けの晩生品種の栽培を強化する。
- ・産地としての統一的栽培方式を導入し、農薬使用量の削減による残留農薬への対応に取り組む。
- ・糖度向上を実現するためのバイオスティミュラント資材を活用し、差別化・高付加価値化を実現させる。
- ・継続的に栽培勉強会・研修会を年4回実施し、スマート農業技術や輸出用資材を使いこなす輸出産地を形成する。

(2)流通・販売

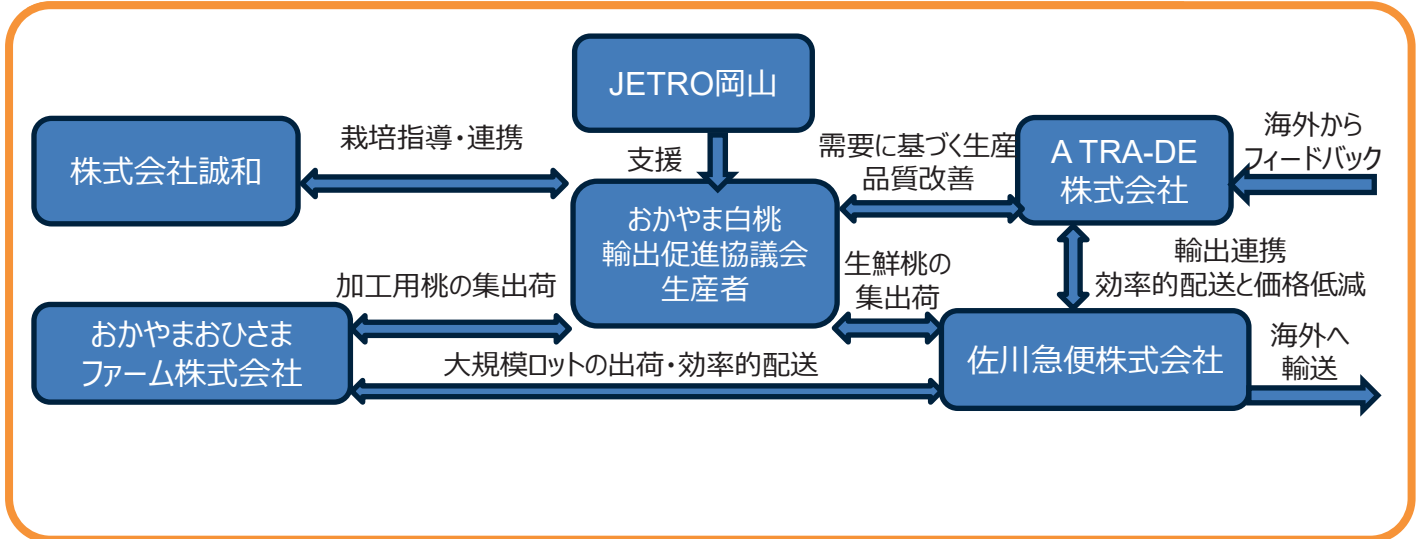
- ・佐川急便株式会社は、産地から港あるいは空港へ、専用ルートを開いて最短かつ効率的に輸送を実施する。
- ・海外への長距離輸送に耐え得るように、新しい鮮度保持技術を使った梱包までを実施する。
- ・ATRA-DE株式会社は海外取引先に対して営業活動を行い、大口注文を受注する。
- ・ATRA-DE株式会社を中心に、継続的な海外展示会への出展によって新たな販路開拓にも取り組む。

輸出事業計画

※申請者名：おかやま白桃輸出促進協議会

品目：桃、桃加工品

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

※輸出先国と輸出する農林水産物・食品の現状及び目標金額を記載すること

桃・桃加工品		現状（令和6年度）	目標年（令和10年度）	備考
総社地区 岡山県	輸出額(千円)	-	27,000	
	輸出量 (kg)	-	4,500	
	輸出先国	-	タイ、台湾、マレーシア、UAE、カンボジア	
	取扱量 (kg)	-	4,500	